



令和3年12月20日 第8号

# 安方中だより

大田区立安方中学校

## 「十五理について」

校長 佐藤 彰

江戸時代末期に日本を訪れた西洋人の多くが語っているのが、日本の教育水準の高さでした。支配階級だった武士は、武芸だけでなく高い教養を身に付けていましたが、一般の町人や農民の多くも読み書きができました。当時の識字率（読み書きできる人の割合）は、推定で国民の85%に上るそうです。ちなみに、当時の大国であるイギリスの都市部ですら識字率は20%程度であったとされています。

黒船を率いて日本にやってきたペリーは、幕府に開国を強く求め、1854年に日米和親条約を結んで開国させました。この時ペリーは電信機や最新の武器、蒸気機関車のミニチュアなどを幕府に贈りました。ミニチュアといっても、時速30キロで走る本格的なものだったそうです。文明の利器を見せつけて威圧し、力の違いをわからせようとしたのでしょう。ところが、日本はわずか1年後に独力で蒸気機関車を造り、蒸気船まで製造できるようになったそうです。西洋の技術を簡単に模倣できるだけの知識や教養が人々にあったためです。



【寺子屋の様子】

江戸時代には、武士が学んだ昌平坂学問所や藩校以外にも多くの私塾があり、様々な学問が教えられました。一般の庶民は、教科書にも出ている寺子屋で勉強した人が多かったようです。

寺子屋の教育指針は、「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で未決まる」ということわざに表されています。説明すると、

「三つ心」とは、3歳までに十分な愛情を注いで、思いやりの心を育てる。

「六つ躰」とは、6歳までに親やきょうだいを見習わせ、挨拶や食事のマナーなどを身に付ける。

「九つ言葉」とは、9歳までに師匠の言葉を真似ることなどを通して、きちんとした言葉遣いを身に付ける。

「十二文」とは、12歳までには正しい文章が書けるようにする。

「十五理で未決まる」とは、15歳までに世の中の道理を理解させる。それで子どもの将来が決まる。

という意味です。人間の成長段階に応じて身に付けるべき素養を明らかにし、確かな哲学のもと教育が行われていました。

江戸時代のものではありませんが、今の時代でも通用する価値観があり、現在の学校や社会で実現しているのかと自問したくなります。

現在、3年生の進路面接を行っています。普段は生徒の皆さんと関わる機会が少ないため、直接話ができる良い機会になっています。3年生は、挨拶や言葉遣いがきちんとしており、緊張しながらも質問に正対して真摯に答えようとしています。

「あなたの在籍している安方中学校はどんな学校ですか？」という質問に対し、「先生方と生徒の距離が良い意味で近く、気さくで話しやすい」、「同学年も先輩・後輩もみんな仲が良く、安心して通える」、「行事や部活動がさかんで、みんな一生懸命に取

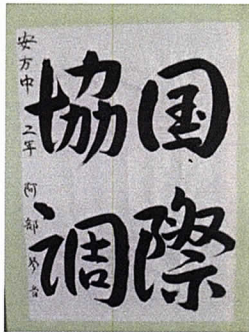
り組んでいる」、「盛り上がる時としっかり集中する時のメリハリがきちんとしている」などと答えていました。「安方中学校のことは好きですか」という問いに対しては、笑顔で「はい」と答え、こちらも嬉しい気持ちになりました。

受験の取り組みは、これからが一番苦しくなります。それは、受験が近づくとつれ、不安や孤独をますます強く感じるからです。人間には、いばらの道を切り抜けた時に初めてわかる道理があります。その道理とは、自分が今あるのはたくさんの人の支えのおかげであることと、自分は一人ではないということです。

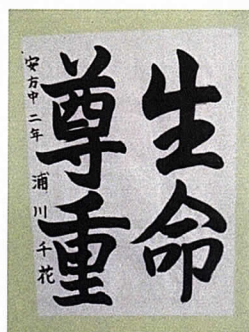
15にして理を知り、世の中の役に立つ人間に成長するよう、今の困難に立ち向かうことを願っています。

## 「大田区立小中学校 人権啓発作品展」

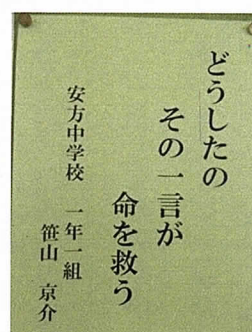
12月3日（金）から10日（金）にかけて、「大田区立小中学校 人権啓発作品展」が行われました。本校からは、習字2名、標語2名、ポスター2名の作品が出品されました。どれも見事な作品で、見る人の人権意識を向上させることに大きく貢献したのでご紹介いたします。



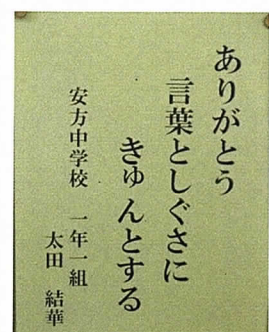
【阿部琴音さん】



【浦川千花さん】



【笹山京介さん】



【太田結華さん】



【田中かのんさん】



【新関東湖さん】

## 「表彰」おめでとう！！

### 【三木茜璃さん】

○令和3年度炎天寺一茶まつり  
全国小中学生俳句大会『秀逸』  
「かきごおり 赤く滴る こいごころ」



### 【石井彩葉さん】

○令和3年度「地球にやさしいまちづくり  
ポスターコンクール」  
中学生の部 『入選』

